

市民委員会資料

所管事務の調査（報告）

「川崎市卸売市場経営プラン」の策定に伴うパブリックコメント
手続について

- 資料1 川崎市卸売市場経営プラン（案）策定経過
- 資料2 川崎市卸売市場経営プラン（案）概要版
- 資料3 川崎市卸売市場経営プラン（案）
- 資料4 「川崎市卸売市場経営プラン（案）」に関する意見募集について

経済労働局

平成27年12月9日

川崎市卸売市場経営プラン(案) 策定経過

- ・平成22年10月:国の第9次卸売市場整備基本方針制定
- ・平成26年1月～27年11月:川崎市卸売市場機能強化検討委員会
- ・平成26年6月:「川崎市卸売市場経営プラン策定協議会」設置
委員:学識経験者、場内事業者(平成27年11月現在で5回開催)

第9次卸売市場整備基本方針抜粋(平成22年10月)

中央卸売市場においては、開設者及び市場関係業者が一体となって、卸売市場全体の経営戦略的な視点から、市場運営のあり方等を明確にし、経営展望を策定するなど、卸売市場としての経営戦略を確立する。

川崎市卸売市場経営プラン策定に向けた骨子検討(平成25年度)

川崎市卸売市場機能強化検討委員会(平成26年1月～27年11月)

委員会 三浦副市長(座長)、関係局長

市場開設運営協議会(卸売市場業務条例に基づく附属機関)

部会

◆卸売市場経営プラン策定協議会(平成26年度設置)

会長 東京聖栄大学 藤島客員教授(前東京農業大学教授)

副会長 東京農工大学大学院 成田助教

(他 卸・仲卸業者11名)

- 出荷者・実需者(量販店、小売店、料飲店等)アンケート調査
- 実需者ヒアリング
- 場内事業者ヒアリング

川崎市卸売市場経営プラン(案)

I 策定の趣旨

市場を取り巻く環境が厳しさを増す中で、社会環境の変化に応じて将来的に機能を維持し、持続させるための方針及び方向性として、開設者と市場関係者が一体となって、卸売市場の位置づけ・役割、機能強化の方向性、将来の需要・供給予測を踏まえた市場の整備、コストを含めた市場運営のあり方等を明確化するために、2016(平成28)年度から2025(平成37)年度までの概ね10年間を計画期間としたプランを策定する。

II 卸売市場の公共性と社会的役割・機能

■卸売市場は高い公共性を持つ社会インフラ

- ・生鮮食料品等を円滑かつ安定的に供給するための基幹的な施設
 - ・多種・大量の物品の効率的・継続的な集荷と分荷を通じ、生産者と消費者とを結ぶ
 - ・公正で透明性の高い価格形成機能
- これらの諸機能を通じて社会に貢献していく必要がある。

III 卸売市場を取り巻く環境の変化

■卸売市場を取り巻く社会環境は大きく変化

- ・人口減少と高齢化の進展
- ・市場外流通の拡大(市場経由率は、青果で6割程度、水産物で5割強)
- ・輸入の増大
- ・1人当たりの品目別消費量の減少
- ・一般小売店の減少と量販店の大規模化

IV 川崎市卸売市場の現状と課題

< 現状 >

■取扱数量の推移

- | | 【2014(平成26)年度】 |
|-------------------------|----------------|
| ・青果は2013(平成25)年に増加に転じる。 | 11万8千トン/280億円 |
| ・水産は過去10年間に大きく減少を続けている。 | 3万3千トン/292億円 |
| ・花きは2010(平成22)年以降ほぼ横ばい。 | 7万本束個/44億円 |

■場内事業者の状況

- ・青果卸合併(2013(H25)年度)
- ・南部市場青果卸業務廃止(2014(H26)年度)
- ・水産卸が横浜市場の卸会社に吸収合併(2015(H27)年度)

< 課題 >

①多様化する消費者ニーズへの対応

- 【北部市場】
 - ・流通の過程において一貫して低温・冷蔵・冷凍の状態を保ったまま流通させる仕組みへの対応
 - ・荷捌き・駐車場問題への対応
- 【南部市場】
 - ・北部市場の機能補完、南部地域の実需者に対する利便性の確保

②取扱数量の減少

卸売市場を取り巻く環境が厳しさが増す中、市場間競争も激化

③卸売市場の持つ社会的価値の確保

「食の安全・安心」「健康」「循環型社会」「防災」への対応

④施設の老朽化

市場機能の維持に必要なインフラ、基幹施設等の更新

< 強み >

①消費地に近接

- 【北部市場】
 - ・東名高速インターから近く、交通の便に恵まれているという優位性
 - ・首都圏の中央卸売市場の中で西部に位置する立地特性
- 【南部市場】
 - ・大消費地である川崎市の中心市街地に近接
 - ・羽田空港に近く、輸入品の流通にも対応可能

②卸・仲卸のフットワークの軽さ

実需者からの急な注文や、小ロットの注文にも対応

③特色ある施設整備

- 【北部市場】・青果配送棟、青果パッケージ場、花き温室
- 【南部市場】・温度管理された水産仲卸売場

V 川崎市卸売市場の基本方向

< 将来ビジョン >

「消費地に立地した広域的市場」

実需者や消費者との距離が近い消費地市場として、今後人口増加が見込まれる開設区域内を中心に生鮮食料品を供給する役割を果たすと同時に、広い敷地や交通網の良さを活かし、卸売市場が少ない広域への物流拠点機能も果たす市場を目指す。

「地域密着型のコンパクト市場」

北部市場より川崎の中心市街地に近い立地特性を活かし、市民の食生活を支えるとともに、食や花等の文化の発信拠点としての「地域密着型市場」を目指す。

< 施策の方向性と基本目標 >

(1) 消費者のニーズに合った商品を安定的に供給するという卸売市場の基本機能の強化

①流通の変化に対応した効率的で機動性のある市場としての機能強化

- 【北部市場】・流通構造の変化に積極的に対応し、商流・物流の効率化に寄与する市場を目指す
- 【南部市場】・北部市場と機能を分担し、南部地域の実需者への利便性を確保する

②柔軟に顧客に対応できる市場としての機能強化

- ・加工・パッケージング等の付加サービスを強化することにより、出荷者・実需者をサポートし、競争力強化を支える市場を目指す
- ・トレーサビリティの推進

③出荷者と実需者をつなぐコーディネート機能の強化

- ・手堅い首都圏の消費者ニーズを捉え出荷者に情報提供
- ・産地の出荷動向や商品情報を実需者に情報提供し、出荷者と実需者をつなぐコーディネート機能を有する市場を目指す

(2) 市場に求められる社会的機能の発揮

④食の安全・安心と食文化に関する取組の強化

- ・衛生検査所と連携し、食品の安全・安心の確保に取り組む
- ・消費者の健康を支える
- ・食文化の継承・発展の拠点となる

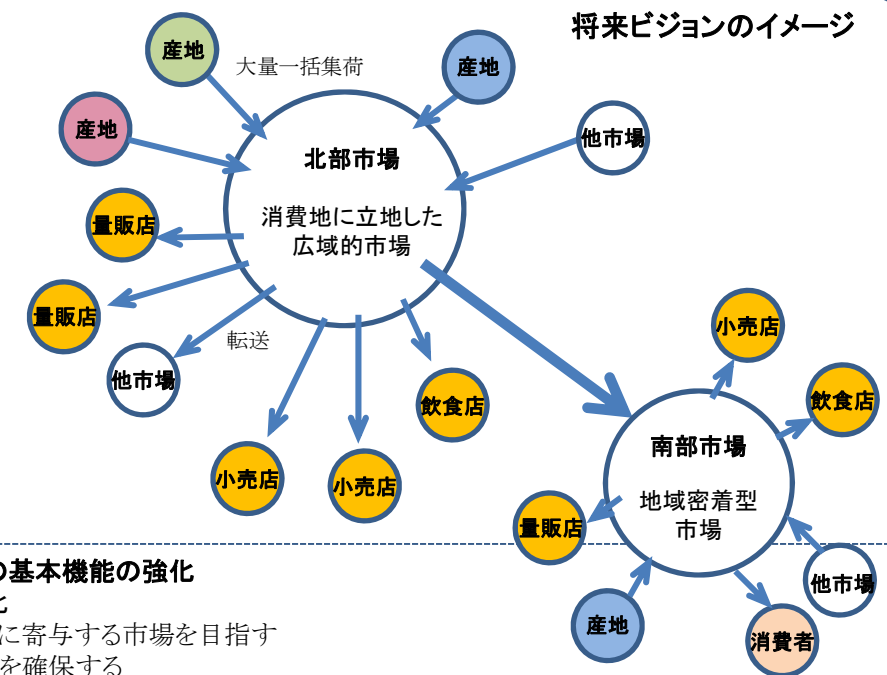
⑤環境と災害対策の強化

- ・エネルギー消費や廃棄物排出等環境負荷の低減に向けて、循環型社会形成に資するエコ市場を目指す
- ・災害時にも食料供給の物流拠点として役割を果たす

(3) 持続可能な経営の確保

⑥持続可能な市場経営体制の確立

- ・市場経営の効率化や民間活力の導入を含め、今後の状況変化にも対応できる市場経営体制の確立を目指す
- ・経営状況や財政状況の明確化を図るため新地方公会計制度に基づき財務諸表を作成し、ホームページで公表する
- ・市場機能を維持するため、受変電設備などのインフラや冷蔵庫など基幹施設の更新や老朽化対策を行う



VI 今後の推進にあたって

- ・プラン全体の進捗管理体制 … 川崎市中央卸売市場開設運営協議会が行う
- ・重点施策の推進体制 … 施策ごとに検討体制を作って推進する
- ・計画的な施設整備の推進 … 整備手順や手法等を定めた整備計画を策定、整備手法は民間活力の導入も含めて検討する

市場別・部門別の方向性

消費地に近く、発達した交通網を活かし、開設区域である川崎市内に確実に供給するとともに、近隣への供給拡大を目指す

【凡例】 --- ターゲットとしているマーケットエリア ● 取扱量の大きさ（大きいほど取扱量が多い）

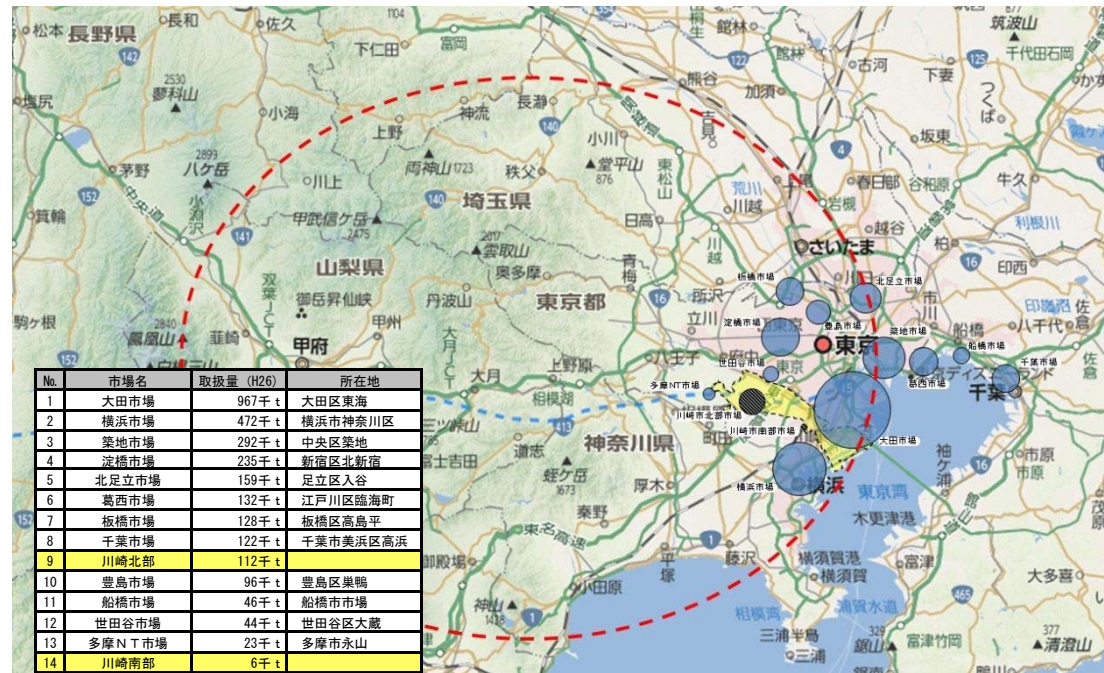
※平成26年取扱高

北部市場 (青果)

今後とも取扱高を増やし、消費者のニーズにあった多種多様な「鮮度」「美味しさ」及び「価格」を提供する市場を目指す。

〈強化が求められる機能〉

定温倉庫・加工・パッケージング等、大量仕入に対応できる物流機能



北部市場 (水産)

川崎市内もしくは近隣を中心に展開する中小スーパーや料飲店事業者をターゲットとして、鮮度感をウリにした市場を目指す。

〈強化が求められる機能〉

低温卸売場等、加工品に対応できる物流機能

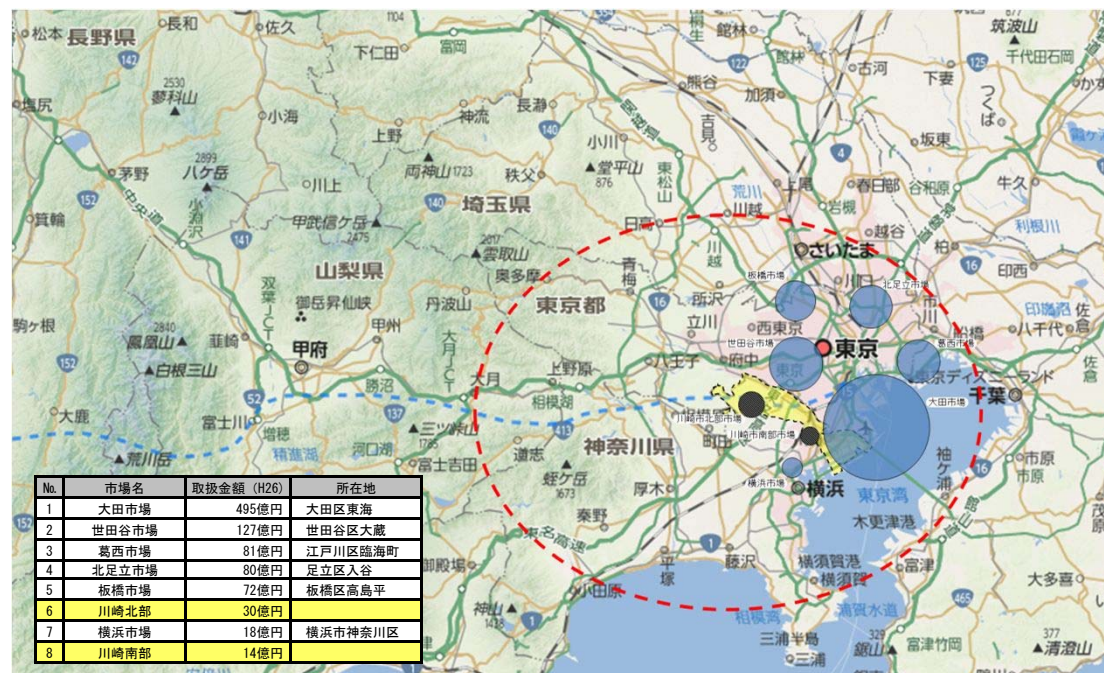


北部市場 (花き)

時代の情勢を踏まえ、品揃えや付加サービス面で、大手の市場が対応できない独自の領域で顧客のニーズに応える市場を目指す。

〈強化が求められる機能〉

温度管理施設等、高品質な商品に対応できる物流機能



南部市場

本市南部市域の買出客（小売店、飲食店等）の利便性を確保する。また、民間事業者が独自のノウハウにより活性化・自主事業を実施することで、消費者にとって身近な地域密着型の市場を目指す。また、民間事業者の創意工夫が生かされるような環境整備に努める。